

第2回 美和ダム再開発 湖内堆砂対策施設検討委員会

議事概要

日 時：平成25年9月27日 午後14時～16時

場 所：ウインクあいち 1309会議室

出席委員：鈴木委員長、角委員、檜谷委員、櫻井委員

渡邊委員（代理：武田）、木村委員（代理：福本）、小林委員

委員会議事の概要

（1）前回委員会での指摘事項の報告

○ 第1回委員会での指摘事項とその対応について、事務局が説明を行った。

委員からいただいた主な意見、質問等は以下のとおり。

- ・ 美和ダムの将来的な堆砂進行のシミュレーションの結果からは、長期的には利水容量への堆砂が進む傾向にあることから、美和ダムの治水容量の確保を目的とした事業ではあっても、利水容量への影響軽減対策についても考えながら進めていく必要があるのではないか。

（2）水理模型実験の目的・計画方針

○ 湖内堆砂対策施設として分派堰上流に配置するストックヤードを検討するための水理模型実験の目的及び計画方針について、事務局が説明を行った。

委員からいただいた主な意見、質問等は以下のとおり。

- ・ スtockヤードによる貯砂・排砂の課題や懸念される影響（例えばバイパスする土砂の変化や、ストックした土砂の圧密度合いによる課題、影響等）を事前に想定し、整理したうえで、実験による確認事項を明確にしておくこと。
- ・ スtockヤード抽出実験に用いる供試体の初期状態（含水比の設定、圧密想定など）を、どのような状態で行うかが難しい。
- ・ 模型実験により土砂動態を推察する際には、水理の相似則が成り立たないことを踏まえたうえで結果を整理すること。
- ・ スtockヤードにストックした土砂が排砂ゲートを開けた際に一気に流出し、下流へ流れる土砂濃度が急激に上昇する可能性があるため、排砂ゲートの開閉方法について検討すること。
- ・ スtockヤード内の微細粒土砂を攪拌させる対策工の検討は、河床の締まり具合によっても結果が異なることから、移動床実験では整理が難しいので、固定床で実施してはどうか。
- ・ スtockヤードの形状は、流線形状とすることで、水流に及ぼす影響を改善できる可能性が高いため、施工性のみでなく、河道への影響なども考慮し検討すること。

(3) 下流影響検討の中間報告

- 湖内堆砂対策施設からの排出による美和ダム下流への影響検討の中間報告として、高遠ダムへの影響について事務局が説明を行った。

委員からいただいた主な意見、質問等は以下のとおり。

- ・ 出水時に高遠ダムの水位を下げて運用することで、貯水池の維持掘削量を少なくし、また堆砂の進行を遅らせることができる可能性がある。このため下流への影響検討として、高遠ダムの運用方法についても検討し、発電事業者と調整を行ってはどうか。
- ・ 高遠ダムへは山室川からも流入する土砂があり、いずれは堆砂が進行することから、発電事業者と協力して、高遠ダムから下流へ排砂する方法を検討してはどうか。
- ・ モニタリング計画を立案する際には、高遠ダム上流の河床材料調査を計画に含めること。

(4) 今後の委員会の予定

- 今後の委員会の実施時期、議題内容について、次回委員会は11月開催を予定し、12月頃には水理模型実験への立会いを予定している旨、事務局が説明を行った。

委員からいただいた主な意見、質問等は以下のとおり。

- ・ 第3回と模型実験への立会いを同時開催とする方法もあるので、考慮されてはどうか。

- 委員に頂いた提案を受け、今後の実験や検討の状況を踏まえて、今後日程調整させていただくこととした。

(6) その他

- ・ スtockヤード運用の検討にあたっては、管理所の少ない人員でも対応できるような案を検討すること。

以 上